



### 給餌は効果的？

シャープシューティングに必ずしも給餌は必要ではないが、捕獲効率を上げるためには給餌による誘引が効果的な場合が多い。また、バックストップがある位置にシカを誘導する等、安全上も有効となる。

#### 夜間銃猟の試行事例

移動型狙撃の際、約8kmの林道に27カ所の給餌地点を設定したところ、すべての給餌地点でシカが誘引されていた。発砲した群のうち92.3%が給餌地点で発見された群であった。



給餌地点に誘引されたシカ



大量のシカの痕跡

### (3) 捕獲時の安全確保策

従事者及び住民の安全を確保するため、次の点に留意する。

- ア 従事者全員が、事前に捕獲場所の地理を熟知しておく。
- イ 射手の射撃場所や射撃方向をあらかじめ決め、それ以外の範囲の射撃を行わない。
- ウ 捕獲作業実施時は、捕獲場所に至る道路の立入を禁止するとともに、監視員を配置する等、付近への立ち入りを排除する措置を講ずる。

エ 捕獲作業日の日中に捕獲場所を見回りし、関係者以外の立ち入りがいないか確認する。人の出入りがいないことを確認した後は、捕獲場所の入口を鍵の付いたチェーンやゲート等で封鎖する。

オ 万が一、捕獲作業中に関係者以外の立ち入りが確認された場合は、速やかに捕獲を中断する。

(関係者以外の立ち入りの確認方法例)

- 通信機能付きカメラでリアルタイムに人の出入りを確認する
- 積雪期の場合は、捕獲現場入り口に雪を撒き、タイヤや足跡等の痕跡から人の出入りを確認する。

(安全確保のための反射テープの活用例)

餌場や狙撃範囲、狙撃禁止区域等に、事前に反射テープで目印をつけておけば、夜間でも認知しやすい。注意喚起看板も反射テープを使用し、目立たせるとよい。



反射テープで文字を書いた注意喚起看板



狙撃範囲を示す反射テープ  
(黄色が50m、赤が100m先を示す)